



HOKKAIDO GROOVE CAMP

北海道グループキャンプ

TIGER OKOSHI

タイガー大越

2006年から芸術の森で開催され、
多くのプロミュージシャン達を輩出してきた「北海道グループキャンプ」。
5年ぶりの開催となった2024年に、開催初年度から講師を務め、
多くの子どもたちを指導してきたタイガー大越さんにお話を伺いました。



SPECIAL INTERVIEW

スペシャルインタビュー

僕が好きなのは

「音楽が人間を作ってくれる」という感覚

自分の成功は自分で作ればいい

インタビュー：原田和典
(2024.3.30実施)

北海道グループキャンプはパークリー音楽大学のメソッドを学ぶことができる貴重な場です。パークリー音大の大きな特色は何でしょうか？

「演奏家だけの学校ではない」ということです。「俺は演奏が好き」という人ばかり集まっても、聴いてくれるひとがいなければどうしようもない。「リスナーがあってこそなのだ」ということを教えます。「俺はこの曲を書いた。レコーディングしたい」という場合、録音エンジニアも必要になりますから、音響的なことも含めて、総合的に教えます。世の中の音楽はジャズやポップスだけではなく、映画音楽のようなバックグラウンド的なものもあるし、子供たちが見ているアニメーションの音楽もある。そういったものも含めて、あらゆる音楽に関して知ってもらい、実践してもらう場がパークリーです。オーディションでは、誰であろうと楽器を選択してもらいます。「私は録音エンジニアになりたいので、楽器はやりません」という考えのひともあるかもしれないし、「僕は作曲で行きたい」「音楽療法

をやりたい」という人もいるかもしれない。そうした人にも、とにかく楽器を一度やってもらいます。たとえば、楽器の経験がない人、譜面を読めない人にエンジニアが務まるわけがないでしょう。「すみません、今どこやってるんですか？わかりません」とエンジニアに言われても(音楽家が)困るじゃないですか。また、これは僕がパークリーの学生の時だった頃から思っていることですが、いろんな国の、違うところから来た人が集まっているのは大きな魅力ですね。違った考え方を知ることによって、刺激を受けることができます。

先生が教育の場で大切になさっていることは何ですか？

「時間をかけて取り組みたい」と思うものを見つけてもらうことでしょうか。あとは、その人が「自分が成功したな」と思うまで続けること。他人を「彼は成功した」「彼は成功しなかった」と判断する必要はありません。自分の成功は自分で作ればいいんです。「お前、成功したのか？」ときかれたら、「しました」と

言えるように。たとえ経済的に潤っていなくても、「僕は必要なものはしっかりいただいていますので、これが僕のサクセスです」と言うことができれば、それはその人にとってのサクセスだと思います。「あれも欲しい、これも欲しい。でも結局何が欲しいのかわからない」となってしまうのは、良くないですから。

特に北海道グループキャンプで心がけていることを教えてください。

毎回、「この時間がもっと長く続いたらいいな、楽しいな」と思えるようなキャンプにしたいと思っています。音楽で人を育てるといえるのか、音楽を通じて感性を広げるといえるのか。それが結局、社会や人間関係にいい影響を与えると僕は考えます。「音楽は僕たち人間が作る」と思っている方もいらっしゃると思いますが、僕が好きなのは「音楽が人間を作ってくれる」という感覚。音楽から教わることは本当に多いです。僕は音楽に取り組んでいるときに、あれこれ考えないんです。音楽に降伏しちゃうわけ。「降伏します、捧げます」という



HOKKAIDO GROOVE CAMP 2025

北海道グループキャンプ2025 開催予告

2025 3.25(木)~30(日)

| 会場 | 札幌芸術の森アートホール

主任講師：タイガー大越 (brass)

講師：Mark Walker (dr)、George Russell (pf)

OB講師：馬場智章 (sax)

※詳細は決定次第サッポロ・シティ・ジャズホームページにてご案内いたします。

感じます。あと、大切なのは、「風を読む」ことでしょうか。道もなければ信号もないなかで、風がどこから来ているのかを感じて、演奏していく。それが音楽であり、(演奏していれば)あつという間に「ああもうね、こんなに時間が経ったのか」となりますよ。そのくらい楽しければ不安もなくなってくる。不安というものは、時間があるから生まれてくる。どうしたらいいのかなと考えちゃう。好きなものに次から次へと取り組んでいけば自然にそれはなくなっていくと思います。意外かもしれませんが、僕は全員プロの音楽家にしようと思って、ここ(キャンプ)に来ているわけではないんです。海外の生徒でも「タイガー、4年間教えてくれてありがとう。これでハーバード大学にやっとなりてロイヤル(弁護士)になれる」と言った子もいるし、「タイガーに師事したい」というので2年間ぐらい教えた生徒は、数学者になりましたし。音楽を通じて人生を豊かにしてもらえればと思います。

先生は世界各国でセミナーを開催されています。海外と日本の生徒の最も際立った違いは何ですか？

自国の音楽を知らない子供たちが多すぎるかなとは思いますがね。北海道グループキャンプの練習曲のひとつである「赤とんぼ」よりずっと以前の、たとえば雅楽などを聴くと自分が日本人であるということに「イエス」と書いてあるような気がする。たとえば会話をして、「あなたの故郷はどこですか?」「札幌です」「札幌はどこですか?」「日本です」。結局は日本になりますし、掘り下げると日本の音楽には脈々と続く歴史がある。パークリーでいろんな国の生徒に教えていると、若い人でも自分たちの国の音楽をよく知っていることがわかります。「私たちの国ではこういう

楽器をこういう風に演奏します。こういうスケール(音階)があります」とか。でも。日本の生徒は伝統音楽を知らないね。グループキャンプの生徒たちにも、「都節(みやこぶし)や沖縄民謡に関して、ちょっと勉強する時間を持ったらどうかな」と言いました。いろいろ経験して「やっぱりこれかな」というのと、「それについては知りません。私はこれで行くんです」では、出てくるものが違うと思います。

北海道グループキャンプは、この2024年(インタビュー時)で14回目です。次の以降のキャンプで、お考えのことはありますか？

先生方を連れてくるのもひとつの考えですが、パークリーの優れた生徒たちも連れてきてあげたいと思っています。パークリーの生徒とグループキャンプの受講生との交流がもう少しあってもいいかなと思いますね。パークリーはニューヨークにもLAにもドバイにもスペインのパレンシアにもありますが、日本は若い生徒にとって「憧れの場」なんです。パークリーは百カ国ぐらいから生徒が来て、ひとつの音楽をやろうとしている学校ですから、グループキャンプでも何カ国もの人が集まって、同年代の者どうしてバンドを組むのも面白いと思います。

ミュージシャンを目指す若い世代へメッセージをお願いします。

難しいですね。一言で言えないから、僕は言わない方がいいんじゃないかと思えます。それはあなた(ミュージシャンを目指す若い人)が決めること、発見することだから。「自分の将来は自分が作るんだ、どこに行ってもそこにいるのはあなただから」ということです。先日74歳になりましたが、僕はやりたくないことに力を注ごうとする気はないんです。でも、



人を助けるためだったらやります。あとは彼ら(生徒)にしたいです。僕は無駄なことは一つもしゃべらない。バカなことたまに言うけどね(笑)。「音楽を作るというのは、こういうことだよ」と示すだけです。

最後に、北海道グループキャンプの魅力は？

北海道グループキャンプは僕に全部任せてもらえますし、ものすごくユニークな場所です。世界にもあんまりないんじゃないかなと思います。「時の流れをちょっと止めてみたかったら、グループキャンプにおいで」みたいな感じでしょうか。もうみんな、誰もが自由に音を出していますからね。

Groove!

北海道グループキャンプ
主任講師

タイガー大越 TIGER OKOSHI

トランペッター、パークリー音楽大学教授

1976年パークリー音大を首席で卒業。ポストンミュージックアワード、ビクターヒット賞等数多くの賞を受賞。トニーベネット等多くのミュージシャンと活動。JVCビクターから7枚のリーダーアルバムを発売。札幌芸術の森主催2006~「北海道グループキャンプ」主任講師。2014年外務大臣表彰受賞。